

令和6年度 北海道釧路湖陵高等学校 学校経営シラバス(全日制課程)

学校教育目標

よりよい未来の共創を目指して、主体的に社会の形成に参画しながら、地域や日本、国際社会の持続的発展に寄与するリーダーを育成するために、

- 自ら学び、考える、心身ともに鍛え、高い知性を身に付けた人を育てます。
- 主体的に計画し、行動する、創造性豊かで、高い志をもった人を育てます。
- 他者を尊重し、ともに高め合う、人間性豊かで、高い道徳心をもった人を育てます。

学校経営方針

- スクール・ポリシーを踏まえ、入学から卒業までの体系的かつ継続性のある教育活動を展開し、目指すべき学校像として再定義されたスクール・ミッションの達成を図りながら学校教育目標の達成を目指す。
- カリキュラム・マネジメントや学校評価をはじめとした、教育活動のマネジメントサイクルを確立し、教育活動の改善・充実を図る。
- 「探究力、創造力、国際コミュニケーション力」をバランスよく身に付けさせる教育活動を推進するとともに、自己の在り方生き方を考えさせながら、よりよく課題を発見し解決するための資質・能力を育む探究的な学習活動の充実を図る。
- 服務規律の遵守はもとより、教員のライフステージを踏まえながら、自己研修を奨励したり、校内研修等を計画的に実施したりするなど、教職員の資質・向上に努める。
- 「学校における働き方改革『北海道アクションプラン』」等を踏まえ、効率的な校務運営に努めるなど、教員の働き方改革を推進する。

対象	中期目標(～R6)	今年度の目標	目標達成のための具体的な取組(評価の観点)
学習指導	◎主体的に学ぶ意欲と学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○KQⅠ及びKQⅡの内容の充実を図る。 ○生徒の学習状況を客観的に評価する観点別学習状況の評価の改善・充実に努める。 ○教科等横断的な学習の充実に努める。 ○ICTの活用について研修を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○担当者間での連携を密にとることにより、内容及び実施時期の調整を行う。 ○学習評価に関する校内研修を実施するとともに、シラバスを用いながら前期及び後期の各教科における学習評価の検証を行う。 ○公開授業週間を利用することにより、他教科が授業参加する機会を設ける。 ○授業での活用を促すとともに会議等校務の場面で積極的に運用する。
生徒指導	◎自律性や社会性を培い、責任を持って行動できる個性ある生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の社会的資質や行動力等の向上を目指した指導の充実を図るとともに、「生徒心得」の改善・充実に取り組む。 ○いじめの未然防止と望ましい人間関係の構築に向けて、教職員による生徒理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶や返事、身だしなみ、スマートフォン使用のルール等について、共通の認識のもとで指導を行う。 ○時代に沿った生徒心得の作成に向けて、執行部をはじめとする生徒の声を反映させながら進める。 ○いじめアンケートの結果等を先生方にフィードバックすることを通じて、生徒の状況の共有を図るとともに、生徒指導部通信を活用し、コンセンサスをとることに努める。
キャリア教育(進路指導)	◎自己理解を深め、主体的に考え、自らの力で進路を切り拓く能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○3年間の見通しを持った体系的な進路指導、進路活動が出来るように指導方針を提示する。 ○生徒の学習状況を測定・分析し、課題の改善に生かす。 ○生徒のキャリアプランを構築するため、説明会等の実施形態を工夫する。 ○生徒・保護者を支援するため、教職員による情報収集を計り、適切な情報発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年、分掌と連携し、体系的な進路指導方針を提示し、生徒が自己の進路実現に向けて主体的に活動できるよう促す。 ○模試校内分析会の実施と生徒へのフィードバックを行い、生徒の主体的な学習の促進につなげる。 ○生徒が卒業生の進路先での学びや、地域の職業人の職業観に触れる機会として、湖陵アカデミアの開催を増やし、生徒の参加を促す。 ○教職員の各種研究会、検討会への参加を促進し、進路通信等を利用した適切な情報発信に努める。
健康・安全指導	◎心身の健康増進及び安全、環境美化意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ○心身ともに健康の保持増進の充実を図る。 ○防災や危機に対する意識の向上を図る。 ○教育相談に関するスキルの向上と組織的な取組を推進する。 ○各種アンケートの活用と評価の改善・充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○機会があるごとに啓発を行い、健康に対する意識を高め、自己管理できるように支援する。 ○防災避難訓練を通して防火防災意識の向上に努めるとともに、減災を意識した生活態度の涵養を図る。 ○サポート委員会や分掌、学年間の情報を共有する。スクールカウンセラーとの連携を通じた、個々の生徒への適切な対応を行う。 ○学年やSSH推進部と連携し、心と身体のチェック・自己効力測定等のアンケートを実施する。
理数教育	◎SSH事業を活用した探究能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○VUCA時代に対応したKoryo Agencyの整理と体系化を図る。 ○SSH推進委員会によるPDCAサイクルを確立に努める。 ○KQと総合的な探究の時間の実施内容の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価委員会を実施し、Koryo Agencyを構成するコンピテンスを測定する方法の研究開発を行う。 ○SSH推進委員会の実施と、各ワーキンググループの運営を通じ、コンピテンス配列表を作成するとともに、教科横断的なPBL型授業の実施につなげる。 ○KQと総合的な探究の時間の年間計画を作成し、内容の精査・改善を行う。